

令和7年度 学校評価について

阿南市立橘小学校

1 令和7年度学校教育目標等について

令和7年度、本校は「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」を目標に掲げ、「笑顔・あいさつ思いやりがあふれる楽しい学校」、「自ら学び、考え、行動する児童」、「語り合い、認め合い、高め合う、活力ある教職員集団」の実現を目指し、「たのしく チャレンジ! ばっちり学び なかまと夢を追求する 橘っ子」を学校スローガンに掲げ、次の三つを基本方針として、教育活動に取り組んでまいりました。

教育目標達成の基本方針 「ほめる教育の推進・深化・定着」

- 1 子どもたち一人一人のよさを見つけ、認め、ほめて、伸ばす
- 2 児童を見つめ、寄り添い、対話する
- 3 PBS(ポジティブ行動支援)の徹底

「進んで挑戦し、最後までやり抜く子」を育てるため、次の五つの努力事項を設定しました。

- 1 学力の向上・・・授業のユニバーサルデザイン化(構造化・視覚化・焦点化)・基礎基本の定着と主体的な学び・ICT の活用・読書活動や音読発表の継続・地域資源の活用、自主学習ノートや新聞活用の推進
- 2 豊かな心の育成・・・挨拶、返事、感謝の言葉・命と人権を大切にする人権教育・多様な体験活動とふるさと学習の充実・読書活動の充実・美しい教室と校内環境・異学年間交流の活性化・SDGs 教育
- 3 体力の向上・・・体育授業の充実・めあてをもった体力づくり・外遊びの奨励・「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけ・器械運動となわとび運動強化(外部講師依頼)・学校保健委員会と給食試食会の開催・家庭と連携した保健、栄養指導
- 4 安心・安全の確保・・・防災教育の推進・交通安全指導の徹底・いじめ、不登校ゼロをめざす生徒指導の充実・教室や校舎内外の整理、整頓と安全点検・報告・連絡・相談の徹底(生徒指導事案・児童の怪我や体調不良等、迅速に情報共有)
- 5 保護者・地域との連携・・・学校だより・学年だより・HP 等積極的な情報発信・教育相談の充実・学校運営協議会、スクールガード、読み聞かせの会、自主防災会との連携
「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の推進

本年度の入学児童数は4名、全校児童数は55名でスタートしましたが、その後3名が転出し、令和8年2月時点では52名となっています。児童数は年々減少しており、今年度は2・3学年の児童数が計14名となり、複式学級の編成が必要な状況でした。しかし、教頭が4学年を担当することで、なんとか複式学級を回避することができました。とはいえ、来年度以降は複式学級を2学級編成せざるを得ない見通しです。

このような状況の中で、児童が自ら考えを深め、高めていけるような学びの場を生み出すため、校内に活気を生み出し、児童の興味・関心を広げること、多様な考えに触れる経験を提供すること、そして多様な他者と協働する活動を設定することに力を注いできました。特に、地域の人・もの・ことを最大限に活用すること、異学年交流を学校生活全体にわたって実施すること、他校との交流を活発に行うことなどに活路を見出してきました。これらの取組を通して、「めざす学校」「めざす児童」「めざす教職員集団」が実現できたのか、どのような成果があったのか、またどのような課題が見えてきたのかを明らかにするため、児童・保護者・教職員を対象にアンケートを実施し、学校評価および学校関係者評価を行いました。

2 令和7年度学校評価について

- (1) 学校評価は、児童・生徒がよりよい教育活動を教授できるよう、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準と向上を図ることを目的として行います。橘小学校では児童・保護者・教職員が一体となって学校教育目標達成を目指していきこうと、令和5年度より「**学校目標達成に向けての評価項目 三者一覧表**」を作成し、教職員が行う「自己評価」、保護者が行う「学校関係者評価」、児童による評価を実施し、学校運営について評価・改善を図っています。

具体的には、子どもたちには「めざす児童像」に掲げられた目標が達成できているか、保護者には自分のお子さんが「めざす児童像」に掲げられた目標の達成ができているか、また達成させるための働きかけができているか、についてアンケートを実施するとともに、教職員には子どもたちが目標を達成できるようにどのような手立てができたか教員評価（自己評価）を行いました。

- (2) 令和5年度から、アンケート・自己評価への回答はタブレット端末やスマートフォンを利用した**Web 上でのオンライン回答方式に変更**し、回答者・集計者の利便を図っています。12月3日（水）、学校評価アンケート実施についてのお願いを保護者宛に出し、10日間をアンケート実施期間としました。児童・教職員についても同期間に実施し、児童については、朝の活動の時間に棟を利用し、タブレット端末から回答してもらいました。回答率は、児童は98%(51/52)、保護者は96%(46/48)でした。

3 学校評価アンケート結果(11ページ～22ページ)

4 アンケート結果の考察

- ① 児童の学習・生活等に関して令和5年度・6年度との比較(児童・保護者による評価)

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童の割合

アンケート項目	R5児	R6児	R7児	R5保	R6保	R7保
① 学校が楽しい。	92	89	86	96	91	83
② 早寝・早起きができている。	72	69	80	97	82	87
③ 朝食を食べている。	94	91	94	99	98	96
④ 歩いて登校している。	46	58	59	53	50	50
⑤ 毎日宿題をしている。	93	91	92	91	91	82
⑥ 自主勉強や読書をしている。	69	63	57	76	70	74
⑦ 漢字の読み書き・計算・音読ができる。	87	88	80	85	90	89
⑧ タブレットを使うことで学習が分かりやすい。	79	87	88	51	54	52
⑨ 当番・係活動・掃除ができている	90	93	94	71	68	70
⑩ 挨拶や返事ができている。	94	92	92	89	87	78
⑪ いじめをしないで友達と仲良くしている。*	89	100	99	100	100	98
⑫ 学校のことをよく話している。	86	84	84	89	90	87
⑬ 災害発生時の行動の仕方が分かる。	93	95	92	91	86	84
⑭ 授業の内容が分かる。	95	97	97	91	84	80
⑮ 先生はがんばったことをほめてくれる。	90	93	94	89	84	89
⑯ 外遊びや体力づくりをしている。	90	88	91	73	70	67
⑰ 自分にはよいところがあると思う。*	94	78	80	95	96	100
⑱ 困ったときに助けてくれる友達がいる。	93	95	93	95	93	92
⑲ 阿南市や橘町が好きだ。	89	91	87	89	92	84
⑳ 学校で勉強したことを生活の中で使っている。	91	95	84	87	90	87
㉑ 将来の夢をもち、がんばっている。	77	86	84	60	57	67

※⑪の設問は、令和5年度は「きまりやルールを守って生活している」でした。

※⑰の設問は、令和5年度は「自分の命や人権を大切にしている」でした。

※昨年度より割合が増えた項目については太字。減った項目は下線。

9項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が昨年度より増加していますが、7項目において減少していることは大きな課題と受け止めています。

学校は子どもたちにとって楽しく、安心して学べる場でなければなりません。しかし、①「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童の割合が年々減少していることは、重く受け止める必要があります。今年度は7名の児童が「楽しくない」と感じており、その要因を早急に把握し、改善することが求められます。友達関係や教師との関係、授業内容の理解度、自分らしさが認められているかどうか、自分のよさを実感できているか、学校に心の居場所があるか、能力を発揮できる場があるかなど、多角的な視点から学級の実態を丁寧に見つめ直す必要があります。いじめアンケート等のデータも活用し、原因を明らかにしたうえで、一人一人に寄り添った指導を進めてまいります。併せて、子どもたちが「行きたい」「楽しい」と感じられる魅力ある学校づくりを推進し、学校生活全体の充実を図ってまいります。

生活習慣の改善という観点から②③④⑥の結果を見ると、②「早寝・早起きができている」、③「朝食を食べている」、④「歩いて登校している」、⑥「外遊びや体力づくりをしている」のいずれも向上が見られました。特に、「早寝・早起き」および「朝食を食べている」は児童・保護者ともに高い割合で肯定的な回答となり、早寝・早起きについては大きな改善が確認できました。これは、保護者の皆様が就寝前のテレビ・スマホ・ゲーム等の使用を控えさせたり、早めの就寝を促したりしてくださった取組の成果であると受け止めています。今後も、睡眠や朝食の重要性について児童への指導を継続するとともに、保護者の皆様への啓発にも引き続き取り組んでまいります。

一方で、④「歩いて登校している」と回答した児童の割合は、昨年度よりわずか1%の増加にとどまり、児童・保護者ともに「できている」と答えた割合は依然として50%台でした。約6割の児童が毎日徒歩で登校できていない状況です。本校には校区外から通学している児童が一定数いることも影響していると考えられますが、徒歩通学が可能な距離に居住している児童であっても、保護者による車での送迎が見られます。家庭の事情や児童の体調等によるものと推察されます。交通安全や不審者対策の観点から、保護者による送迎は大変ありがたい面もありますが、子どもたちの体力づくりや早起きの習慣づくりという点では、徒歩通学には大きな意義があります。無理のない範囲で徒歩通学に取り組めるよう、保護者の皆様にも協力を呼びかけていきたいと考えています。

児童と保護者の回答に差が見られたのが、⑥「外遊びや体力づくりをしている」です。児童は91%が「できている」と回答している一方で、保護者は67%にとどまっています。学校では、体育授業の工夫、休み時間の外遊び奨励、のびのび班によるレクリエーション活動の活性化など、体を動かす機会の充実に取り組んできました。特に今年度は、県教育委員会の外遊び推進事業を活用し、マット運動・跳び箱運動・縄跳び運動について専門講師による指導を受けました。季節に応じて学校全体で一つの運動に取り組むことで、児童の意欲も高まり、進んで体を動かす姿が増えました。この成果が、児童の91%という高い肯定回答につながったと考えています。一方で、家庭に戻ると、社会体育への参加の有無、安全に遊べる場所の不足、近隣に友達がいないことなどの理由から、運動の機会が限られている児童もいると推察されます。短時間でできる運動や親子で取り組める簡単な体力づくりなど、家庭で無理なく実践できる方法を発信し、学校と家庭が連携して児童が日常的に体を動かす習慣を身に付けられるよう支援していきたいと考えています。

学力向上という観点から、⑤⑥⑦⑧⑭⑯の結果をみますと、⑤「毎日宿題をしている」、⑧「タブレットを使うことで学習が分かりやすい」と回答した児童の割合は増加しており、宿題の定着やICT活用の効果が見られます。一方で、⑥「自主勉強や読書が自分から進んでできている」、⑦「習った漢字の読み・書き、計算や音読ができる」、⑯「学校で勉強したことを生活の中で使っている」と回

答した児童の割合は減少しています。自主学習や読書習慣の低下は、基礎学力の定着や学びの活用に影響している可能性があります。

今後は、漢字・計算などの基本的な学習事項の繰り返し学習の大切さを伝えるとともに、自主学習の進め方や自主学習ノートのまとめ方の紹介、授業と関連付けた自主学習課題の設定など、家庭学習と授業を効果的に結び付けていきます。宿題以外の家庭学習が習慣として定着するよう、継続して働きかけていきたいと考えています。また、タブレットを活用したドリル学習や調べ学習を家庭学習として取り入れるなど、ICTの利点を生かした家庭学習にも取り組めるよう支援していきます。

読書については、学校では木曜日の朝の活動や、課題が早く終わった時間、休み時間など、隙間時間に本を手取る児童の姿が多く見られます。しかし、家庭では読書時間の確保が難しい状況がうかがえます。毎週金曜日に家庭読書を宿題として本を借りて帰るよう呼びかけていますが、今後は呼びかけ方をさらに工夫し、家庭での読書習慣の定着を図っていききたいと考えています。

⑭「授業の内容が分かる」と答えた児童の割合は昨年度と同じく 97%と高い水準を維持していますが、保護者の評価は 80%にとどまっています。宿題や家庭学習の場面で、子どもたちが「分からない」とつぶやく声を敏感に受け止め、心配してくださっていることが背景にあると考えられます。また、学校での学習の様子や子どもたちの理解の深まりが、家庭に十分に伝わっていない可能性もあります。

今後は、学校だより・学年だより・ホームページでの発信に加え、授業参観の機会を確保するとともに、学習の成果物を見ていただく機会を増やしていきたいと考えています。さらに、授業の見える化の強化・学習の成果物を共有する機会の拡充・家庭学習とのつながりを意識した課題設定・保護者への学習情報の丁寧な発信などを通して、学校での学びがより見えやすくなり、保護者の皆様にも子どもたちの成長や理解の深まりを実感していただけるよう努めてまいります。

道徳性の向上という観点から⑨「当番・係活動・そうじを一生懸命している」、⑩「挨拶・返事・ありがとう」ができてきている」の結果を見ると、90%以上の児童が「できている」と回答しており、橘小学校の子どもたちは挨拶がよくでき、自分の役割に誠実に取り組む姿が定着しています。運動場の草抜きや落ち葉拾いにも熱心に取り組むなど、日常の活動においても主体的な姿が見られます。一方で、家庭での手伝いについては「自分から進んで取り組む」児童が少ないことがうかがえます。また、挨拶の中でも「はい」という返事が十分に定着しておらず、教師が声をかけた際に「うん」と返す場面が見られます。返事の仕方は、やる気や相手への敬意を表す大切な行動であり、今後も粘り強く指導していく必要があります。さらに、児童の 92%が「できている」と回答している一方で、保護者の評価は 78%にとどまっています。学校ではできていても、家庭や地域での挨拶が十分にできていないと感じられている可能性があります。

こうした状況を踏まえ、学校では「はい」という気持ちのよい返事の意味や良さを丁寧に伝えながら日常的に指導を続けるとともに、家庭や地域でも挨拶が自然にできるよう、学校での良い実践を保護者に分かりやすく発信し、連携を深めていきたいと考えています。また、係活動や掃除などで「自分から動く」経験を積ませることで、自発的な行動が家庭での手伝いにもつながるよう励まし、学校と家庭が協力して子どもたちの道徳性をさらに育ていけるよう取り組んでまいります。

自尊感情の育成という観点から⑮⑰の結果を見ると、児童の 94%が「先生はがんばったことをほめてくれる」、80%が「自分にはよいところがあると思う」と回答しています。一方、保護者の 89%が「学校でほめられたことで自信を高めている」、100%が「お子さんのよいところを認め、ほめている」と答えており、学校と家庭の双方で子どもたちのよさを認め、励ましていることがうかがえます。しかし、「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童は依然として 80%にとどまり、20%の児童

が自分のよさを実感できていない状況は大きな課題です。教師や保護者がしっかりほめているにもかかわらず、自信をもてない児童が一定数存在する背景には、学力への不安や小規模校特有の人間関係の近さなど、さまざまな要因が考えられます。昨年度から、子どもたちが自分から挑戦する場を意図的に設けてきましたが、依然として「受け身で褒められる経験は多いのに、自信にはつながりにくい」という傾向が見られ、学校も大いに反省しているところです。

自尊感情を真に育てるためには、「ほめられる」という受け身の経験だけでは不十分であり、自ら困難に挑戦し、試行錯誤し、克服した経験から得られる達成感こそが、子どもたちの内側から湧き上がる自信につながると考えます。今後は、「教え、見守り、褒める」というこれまでの取組を大切にしながら、そこに「挑戦させ、考えさせ、克服させる」という視点を加え、子どもたちにとって少しだけハードルの高い課題に取り組む機会を意図的に設定していきたいと思えます。挑戦と成功体験を積み重ねることで、自分のよさを実感し、自信をもって行動できる児童の育成をめざしてまいります。

人権教育の観点から⑪と⑫を見ると、「いじめをしないで友達と仲良くしている」と答えた児童が99%、「困ったときに助けてくれる友達がいる」と答えた児童が93%と、昨年度よりわずかに数値は下がったものの、いじめに関する項目は3年間を通して極めて高い数値で推移し、児童・保護者ともにほぼ100%の肯定的回答となっています。また、「困ったときに助けてくれる友達がいる」と答えた割合も高水準で安定しており、人間関係のよさが本校の大きな強みとして定着していると考えます。

「いじめをしよう」と思っている児童はいないと思われませんが、友達との関わりの中で行き違いやけんかが起こり、相手が傷ついていることに気付けない場合もあります。そのようなとき、助けてくれたり話を聞いてくれたりする友達の存在は、傷ついた児童を支えるだけでなく、相手を傷つけてしまった児童に気付きを促す大切な機会にもなります。多くの児童が「困ったときに助けてくれる友達がいる」と答えていることは安心材料ですが、7%の児童がそのような友達がいないと感じていることは大きな課題です。今後は、教師が困っている児童にすぐに寄り添う姿を示しながら、子ども同士の交流を活発にし、協力して一つのことをやり遂げる経験や、学級全体で一緒に遊ぶ時間を意図的に増やしていきます。こうした取組を通して、すべての児童が「助けてくれる友達がいる」と自信をもって言えるよう、楽しい学級づくりを進め、互いのよさを認め合う人間関係の育成に努めてまいります。

防災教育の観点から⑬を見ると、「地震や津波の時の避難の仕方が分かり、行動できる」と答えた児童は92%で、昨年度より3%減少しました。今年度も自主防災会の皆さまのお力をいただきながら多様な防災教育に取り組み、学校として「徳島県まなぼうさい賞 活動賞」および「1.17 防災未来賞『防災甲子園』UR レジリエンス賞」を受賞することができました。また、5・6年生を対象に、徳島大学大学院の金井准教授を招いて避難所における人権問題やトイレ問題についての出前授業を行ったほか、愛媛大学の多田准教授の指導のもと、橘町の事前復興プランを考える学習にも取り組むなど、専門家との連携による学びを充実させました。

避難所を巡るウォークラリー、防災フェスタ、下校時避難訓練、和光神社の見学、昭和南海地震や南海トラフ巨大地震について学ぶ授業、龍谷大学の出前授業など、毎年多くの避難訓練や防災学習を積み重ねていますが、「備えあれば憂いなし」です。実際に災害が起きた際に、自ら考え、判断し、命を守る行動がとれる子どもを育てるため、今後も内容や方法の工夫・改善を続け、より実践的な訓練や学習を重ねていきます。そして、すべての児童が「避難の仕方が分かり、行動できる」と自信をもって答えられるよう取り組んでいきたいと考えています。

ふるさと教育の観点から⑭を見ると、「阿南市や橘町が好きだ」と答えた児童は87%で、昨年度より4%減少しました。昨年度は創立150周年記念行事があり、地域の方との交流を重視したふる

さと学習にも力を入れたことから、91%の児童が「好きだ」と回答していました。一方で、子どもたちは日頃から「祭りが大好き」「町の人たちは優しくて親切」と話しており、橘町への愛着そのものは強く感じられます。しかし、気軽に遊べる場所が少ない、子ども向けのお店が少ない、多くのイベントが行われる場所から遠いといった理由から、「あまり好きではない」と答えた児童もいるようです。子どもたちが成長し行動範囲が広がるにつれ、遊び場や商業施設の有無、交通手段の充実度などが評価に影響していると考えられます。

今後も、すべての児童が「阿南市や橘町が好きだ」と答えられるよう、地域との交流学習やふるさと学習をさらに充実させていきたいと考えています。また、学校再編・統合を見据え、近隣の小学校との交流を活発にし、その過程で地域のよさを再発見できるような活動も取り入れていきたいと思ひます。

②「将来の夢を叶えるためがんばっている」と答えた児童は 84%で、昨年度より2%減少しました。一方、「お子さんは将来の夢を意識してがんばっている」と答えた保護者は67%で、昨年度より10%増加しています。令和5年度から学校教育目標の中心に据えて取り組んでいますが、16%の児童はまだ将来の夢を具体的に描けていない状況です。地域で活躍されている方々との交流や、専門家による出前授業を通して、多様な生き方に触れる機会を重ねる中で、「人の役に立ちたい」「社会に貢献したい」「自分の得意を生かしたい」といった思いは確実に育っています。しかし、具体的な職業や将来像まで結びつけるには、もう少し経験や刺激が必要な児童もいるようです。人は出会いによって成長します。来年度も、特に地域の方々との交流の場をさらに広げていきたいと考えています。

本校は小規模校であるため、日常的に関わる友人が限られており、どうしても同じメンバーで過ごす時間が長くなります。そのため、興味・関心の幅が広がりにくかったり、将来の夢を描く際の視野が狭まりやすかったりする面があると考えられます。これは地域や学校の問題というより、小規模校ならではの特性といえます。だからこそ、学校外の人々や同世代との交流機会を意図的に増やすことが、子どもたちの視野を広げる上で大きな意味を持ちます。今後は、地域の方々とのつながりに加え、他校の児童や多様な分野で活躍する人との出会いをさらに充実させ、子どもたちがより豊かな将来像を描けるよう支援していきたいと考えています。

② 学校の取組に関して令和5年度・6年度との比較（保護者による評価）

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた保護者の割合

アンケート項目	R5保	R6保	R7保
②学校は、学力向上や学習の定着のために熱心に取り組んでいる。	87	93	94
③学校は、子ども一人一人を大切にし、子どもの発達に応じて人権意識を育てている。	97	88	91
④学校は、命を大切にし、健康な体づくりのための教育活動に取り組んでいる。	97	97	<u>95</u>
⑤学校は、いじめや不登校の防止とその対応を適切に行っている。	87	91	89
⑥学校は、防災教育や安全対策を適切に行っている。	100	100	100
⑦学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどで学校の様子が学習の内容を保護者や地域に分かりやすく伝えている。	97	98	<u>95</u>

⑫の**学力向上**の取組について、「熱心に取り組んでいる」と答えた方の割合が、昨年度の93%から94%へとアップしています。学校では、学力向上実行プランに基づき、タブレットを用いた調べ学習や発表力の育成、視写タイムや子ども新聞タイムなどの積み重ねによる読み・書きの力の定着、音読発表や行事作文による表現力の育成、「学習の手引き」に基づく自主学習ノートの推進などに取り組んできました。これらの取り組みを評価してくださっていると考えます。

しかし、児童アンケートの⑧「漢字の読み書きや計算、音読ができる」と答えた児童の割合は、昨年度から8%減少しており、基礎的な学力の定着に課題が見られます。この結果を重く受け止め、基礎・基本の確実な習得に向けて、学習内容や指導方法の見直しを進める必要があると考えています。今後は、単に基礎・基本の反復にとどまらず、それらを活用して思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を一層充実させます。あわせて、個々の児童のつまずきを早期に把握し、補充学習や個別支援の強化、家庭学習との連携の在り方など、学力向上に直結する具体的な改善策を積極的に講じていきます。

⑬の**豊かな心の育成**について、「子どもの発達に応じて人権意識を育てている」と答えた方の割合が、昨年度の88%から91%へと増加しました。学校は、昨年度に引き続き、「豊かな人権感覚を身に付け、主体的に行動できる橘っ子の育成～一人一人の違いや仲間の多様性を認め、共に支え合える仲間づくりを通して～」をテーマに、一年間を通して人権教育に取り組んできました。具体的には、同和問題、障害者差別、いじめ問題を扱う人権学習をはじめ、人権・いじめ防止委員会による朝の挨拶運動、ありがとうの手紙、「ふわふわことば」の掲示、車いす・アイマスク体験、異学年集団「のびのび班」の活動など、多様な実践を積み重ねてきました。また、防災学習においても、避難所での弱者の立場を考えるなど、人権の視点を取り入れた学習を行ってきました。

その成果として、子どもたちの友達への言葉かけがより優しくなり、「大丈夫?」「手伝うよ」といった思いやりのある行動が日常的に見られるようになりました。毎週のお昼の校内放送で紹介される「ありがとうの手紙」でも、「一緒に遊んでくれてありがとう」「大丈夫と言ってくれて嬉しかったよ」といった温かい内容が増えています。日常の学習や生活の中で、相手の気持ちを考えて行動する姿が増え、友達を大切にしようとする意識が育っていると感じています。

一方で、下校後の遊びやオンラインゲームなどの延長で、軽い気持ちで友達をはやし立てたり、からかったりする場面も見られ、人権意識のさらなる育成が必要であると感じています。今後も、対話的な学習や学級活動を通して、思いやりや自己肯定感を育む指導を継続し、人権尊重の意識が学校全体に根付くよう努めてまいります。

⑭の**体力向上**に関する取組については、95%の保護者・地域の皆様から肯定的な評価をいただきました。今年度も、阿南市小学校水泳記録会、陸上記録会、阿南市小学校一輪車大会などに多くの児童が参加し、意欲的に取り組む姿が見られました。12月には、JA アグリ阿南陸上競技場において福井小学校との交流持久走大会を実施しました。大会に向けた練習では、「福井小学校には負けないぞ」という競争心をもって全力で走る児童の姿が見られ、本番でも両校が互いに競り合いながら、全員が完走するという大きな成果を収めました。

また、県教育委員会の外遊び推進事業を活用し、10月にはマット運動・跳び箱運動について専門講師による指導を受けました。さらに1月にも縄跳び運動の専門講師を招き、ポイントを押さえた的確な指導を通して、児童の運動意欲が一層高まる様子が見られました。体育の授業では、5・6月に50m走やハードル走、10月に跳び箱・マット・鉄棒、11・12月に持久走、1月になわとびと、全学年が同時期に同種目へ取り組む年間指導計画を実施しました。上級生の姿を目標に下級生が努力する姿が多く見られ、学年間の良い相乗効果が生まれました。複式化を見据え、1・2年、3・4年、

5・6年の合同体育を行ったことも、児童の意欲向上につながったと考えています。

今後も、学年間交流をさらに活発にし、具体的なめあてを設定した体力づくりを推進するとともに、登校後や休み時間の外遊び、縦割り班活動を活用した体を動かす遊びを奨励するなどして、子どもたちの体力アップに取り組んでまいります。

⑭の体力向上に関する取組については、95%の保護者の皆様から肯定的な評価をいただきました。阿南市小学校水泳記録会、陸上記録会、一輪車大会などに多くの児童が参加し、意欲的に取り組む姿が見られました。12月には、JA アグリ阿南陸上競技場にて福井小学校との交流持久走大会を実施しました。練習段階から「福井小学校には負けないぞ」という競争心をもって全力で走る姿が見られ、本番でも両校が互いに競り合いながら、全員が完走するという大きな成果を収めました。また、県教育委員会の外遊び推進事業を活用し、10月にはマット運動・跳び箱運動、1月には縄跳び運動について、専門講師による指導を受けました。的確なアドバイスを通して、児童の運動意欲が一層高まる様子が見られました。

体育の授業では、年間を通して全学年が同時期に同種目へ取り組む指導計画を実施しました。5・6月は50m走やハードル走、10月は跳び箱・マット・鉄棒、11・12月は持久走、1月は縄跳びに取り組みました。上級生の姿を目標に下級生が努力する姿が多く見られ、学年間で良い相乗効果が生まれました。さらに、複式化を見据えた1・2年、3・4年、5・6年の合同体育も、児童の意欲向上につながったと考えています。今後も、学年間交流をさらに活発にし、具体的なめあてを設定した体力づくりを推進してまいります。また、登校後や休み時間の外遊び、縦割り班活動を活用した体を動かす遊びを奨励し、児童の体力向上に努めてまいります。

⑮のいじめや不登校への対応について、「対応を適切に行っている」と回答した保護者の割合は、昨年度の91%から本年度は89%へとやや減少しました。今年度も大きないじめ事案は発生していませんが、「豊かな心の育成」の項でも触れたように、オンラインゲーム上で相手を傷つける言葉を発してしまう児童や、その延長で友達をからかったり、はやし立てたりする場面が見られました。こうした子どもの様子を目にされた保護者の方々から、厳しいご意見をいただいたことが、評価に影響したものと考えられます。「友だちに嫌なことを言われた」という児童からの訴えや、保護者からの相談があった際には、担任や生徒指導担当が速やかに児童の話聞き、関係児童と話し合いを行い、解決に向けた指導を行っています。今後も、保護者の皆様と迅速に情報を共有しながら、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めてまいります。また、毎週火曜日には全教職員で児童の様子について共通理解を図る時間を設けており、気になる行動については早期に対応できるよう努めています。引き続き、互いの人権を尊重し合い、安心して過ごせる楽しい学校づくりに力を尽くしてまいります。

⑯の防災教育・危機管理については、昨年度に引き続き、100%の方が本校の防災教育や安全対策について肯定的に評価してくださっています。今年度も、自主防災会の皆さんと連携して、ウォークラリー、こどもユレタキャラバン、防災フェスタ、下校時避難訓練、南海トラフ巨大地震に関する出前授業、和光神社の見学、NHK「とく6徳島」の「ぼうさいてくてく」との町歩き等々、たくさんの活動に取り組みました。また、龍谷大学との連携授業にも取り組みました。今後も、災害発生時に児童自身が「命を守る行動」をとることができるように、防災教育のアップデートに取り組んでまいります。

また、子どもたちが安心・安全に過ごすことができるよう、施設・設備の点検や修繕、不審者対策や自然災害を想定した避難訓練、食物アレルギー対策、生活安全や交通安全の指導に努めてまいります。

⑳の保護者や地域への情報発信については、95%の方が学校だよりやホームページなど、学校の情報発信を肯定的に評価してくださっています。今年度は特に、ホームページの創立150周年事業のページを充実させ、関連する活動については随時アップさせていただき、たくさんの方に閲覧していただきました。また、各学年の学年だよりも、子どもたちの活動の様子が分かる写真中心のものにレイアウトを変更し、好評価をいただいております。今後も、様々な媒体を活用し、学校の教育活動について積極的に情報発信してまいります。

また今年度は、災害発生時の安否確認メール一斉送信テストを行いました。安否確認フォームでの回答率は98%で、ほぼすべての家庭から第一報としての安否確認情報を得ることができました。今後、大きな災害が発生した際の情報収集手段の一つとして、システムを構築することができましたが、複数の手段をもっておくことが大切だと考えております。今後もよりよい方法を模索してまいります。

③学校運営に関して令和5年度・6年度との比較(教職員による自己評価)

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員の割合

アンケート項目	R5	R6	R7
㉘学校運営に職員の意見が反映されている。	100	76	93
㉙職員会、終礼などが機能している。	100	100	<u>93</u>
㉚気軽に相談し合える人間関係ができています。	93	92	100
㉛問題行動が起こったとき、組織的に対応できている。	100	100	100
㉜校内研修で学んだことが実践に役立っている。	100	92	100
㉝業務の効率化、最適化に取り組んでいる。	93	93	92
㉞ワークライフバランスに留意し、働き方改革に取り組んでいる。	100	84	100

㉘の「学校運営に職員の意見が反映されている」について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した教職員の割合は、昨年度の76%から本年度は93%へと大幅に増加しました。昨年度は、阿南第二中学校区の人権教育研究会の会場校を務めたことや、創立150周年記念集会の実施などにより、教職員の負担が大きくなっていました。一方で、今年度は大規模な研究会等の開催がなく、橘小学校本来の教育活動にじっくりと取り組むことができました。その結果、教職員にも比較的心の余裕が生まれ、学校運営についてじっくりと話し合い、積極的に意見や考えを出し合うことができました。それらの意見が学校運営に反映されたことが、今回の結果につながったと考えられます。

来年度も引き続き、「語り合い、認め合い、高め合う活力ある教職員」をめざす教職員の姿として掲げ、情報共有と組織的対応の徹底、何でも話せる「風通しのよい職員室」の実現、助け合い・支えあう「お互い様精神」の推進、若手・中堅・ベテランが互いに学び合う職員室文化の実現に、教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

㉙の「職員会、終礼などが機能している」について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した教職員の割合は、昨年度の100%から本年度は93%へとやや減少しました。本年度は、校務支援システムを活用し、会議資料を事前にシステム上の掲示板へデジタルデータとして掲載するなど、校務のDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組みました。また、翌月の行事計画案については、前月に実施する企画会(管理職・教務主任・研修主任・人権教育主事で構成)であらかじめ検討し、終礼ではその周知・連絡にとどめることで、教職員の退庁時刻を意識した効率的な運営を心がけま

した。さらに、毎週火曜日の終礼後には「児童理解の時間」を設け、全学級の子どもたちの様子について情報共有を行いました。子どもの様子で気になる点がある場合には、その場で対策等を相談することもあり、結果として会議時間が延びることもありました。

今後は、連絡事項については引き続きデジタル化を進め、子どもに関することはアナログで丁寧話し合うというように、メリハリのある会議運営を意識していきます。限られた時間の中でも、内容の濃い、実りある会議となるよう努めてまいります。

③①の「気軽に相談し合える人間関係ができています」について、よくあてはまる」「あてはまる」と回答した教職員の割合は、昨年度の 92%から本年度は 100%へと増加しました。今年度は、休み時間に職員室へ戻ってくる教員の姿が多く見られ、子どもたちの活動の様子や成長した点、気になる点などについて、教職員同士が活発に意見を交わす様子が見られました。また、タブレットなどのデジタル機器の操作方法を教え合ったり、新たな教育活動について相談し合ったりするなど、職員室は大変活気にあふれていました。日中にしっかりとコミュニケーションが取れていることで、放課後に遅くまで残って仕事をする教職員の姿も、昨年度に比べて大きく減少しました。さらに、教職員に心のゆとりが生まれたことで、子どもたちへの目配りも行き届き、児童間の大きなトラブルもほとんど見られませんでした。

教職員の良好な人間関係は、学校運営の要であると言っても過言ではありません。今後も、風通しの良い職場づくりに努め、誰もが安心して相談し合える環境を大切にまいります。

③①の「問題行動が起こったとき組織的に対応できている」については、昨年度に引き続き、教職員全員が「できている」と回答し、100%の肯定的な評価となりました。橘小学校では、どんな些細なことでも必ず管理職への報告・連絡・相談を行うことを、学校運営の基本原則としています。また、児童に関すること、学校内での出来事、教育委員会からの伝達事項など、あらゆる情報を全教職員で共有することも徹底しています。こうした取り組みにより、教職員一人ひとりの当事者意識が高まり、問題が発生した際には、全員が解決の方針と対応策を共有し、迅速かつ的確に対応することができています。この体制は、教職員にとっての安心感にもつながっており、組織としての信頼性を高める要因となっています。

今後も、報告・連絡・相談の徹底と情報共有を継続し、全教職員が一丸となって問題解決にあたる、組織的で信頼される学校運営を目指してまいります。

③②の「校内研修で学んだことが実践に役立っている」について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した教職員の割合は、昨年度の 92%から本年度は 100%へと増加しました。橘小学校では、毎週木曜日の午後 3 時から（委員会・クラブ活動がある日は午後 3 時 30 分から）を校内研修の時間と定め、人権教育、特別支援教育、コンプライアンス、防災教育、ICT など、さまざまなテーマについて外部講師を招くなどして、教職員の資質向上に努めています。中でも特に重視しているのが、研究授業と授業研究会です。すべての教員が研究授業を実施し、授業の計画・実施を通して他の教職員から意見をもらうことで、授業改善に直結し、児童の学力向上にもつながると考えています。今年度も全教員が研究授業を行い、各学年の児童の実態を把握するとともに、授業の工夫やアイデアを互いに学び合うことができました。来年度も、授業研究会を中心に据えながら、子どもたちや学校が抱える課題に関する分野の研修を計画・実施し、教職員の力量向上を図ってまいります。

③③の「**業務の効率化、最適化に取り組んでいる**」について、肯定的に答えた職員の割合が、93%から92%になりました。しかしながら、②⑨でも触れたように、今年度は会議資料や保護者配付文書のデジタル化を進めるなど、校務のDX化を大きく前進させました。業務のペーパーレス化によって、コスト削減や省資源化が実現できたことは、大きな一歩と言えます。また、保護者の皆様のご理解のもと、朝の校舎開錠時刻を午前7時30分に変更したことで、教職員がゆとりをもって出勤できるようになりました。さらに、昨年度から阿南市全体で導入された「夏休み明けのゆっくりスタート期間」による4時間授業日や、始業式・終業式などの節目の行事日における4時間授業日の設定により、教職員が気持ちに余裕をもって勤務できる環境が整いつつあります。その結果、教職員の時間外在校等時間（超過勤務）は、昨年度比で25%減となり、今年度は月平均約20時間までに改善されました。

県内の学校では、教職員課主導の「とくしまの学校における働き方改革プラン第3期（令和6～8年度）」に基づき、タイムマネジメントの徹底、業務改善のさらなる推進、外部人材の積極的活用、部活動の適性化を柱とした働き方改革が進められています。現在、教員不足が深刻化する中、教職員一人が病気や過労で倒れるだけでも、学校運営に大きな支障をきたす現状があります。次年度以降も、新たに始まる「とくしまの学校における働き方改革プラン第4期」に基づき、校務のさらなるDX化を図り、教職員が心身ともに健康で、子どもたちとしっかり向き合える時間を確保できるよう、引き続き業務改善に取り組んでまいります。

③④の「**ワークライフバランスに留意し、働き方改革に取り組んでいる**」に肯定的に答えた職員の割合が、84%から100%に増えています。③③でも触れたように、今年度は業務改善が進み、教職員の時間外在校等時間（超過勤務）が大幅に減少しました。また、③⑩でも触れたように、気軽に何でも相談し合える人間関係ができていたため、教職員は地震や家族の体調が悪い時、お子さんの学校行事があるときなど、気軽に休みをとることができていました。特に子育て世代の教員同士には、「お互い様」という考えが基盤にあり、他の教員の休みを進んでカバーする関係ができています。休暇等の制度面は整ってきていますが、安心して休みを取得できる校内人員体制、行悔いの平準化、温かい人間関係が揃っていることが重要と考えます。来年度は児童数減少に伴い、さらに教員が1名減ります。一人当たりの仕事量が増えることが十分予想されますが、さらなる校務の効率化、行事・会議・出張の精選、校時表や時間割の見直しなどに全教職員が知恵を絞って取り組み、教職員が心身ともにゆとりをもって働くことができるよう、実効性のある働き方改革に取り組んでまいります。

5 学校運営協議会の実施

これらの結果をもとに、令和7年2月20日（木）に第2回学校運営協議会を開催し、委員の皆様から次のような意見をいただきました。

- ・ 授業参観中にたまたま、防災無線で消防からの連絡が聞こえていたようだが、何を言っているのかほとんど聞こえなかった。橘小学校は避難所になっている。いざというとき聞こえないのは問題なので、防災無線がしっかり聞こえるように設備を設置するよう要望してほしい。
- ・ それぞれの地域で、学校がなくなることへの抵抗感が強いと思うが、市には、児童数減少対策として、早く学校再編統合を進めてほしい。
- ・ 分校方式で学校を残せないのか。1年生の時はこちらの学校、2年生になったらあちらの学校というように。そうすれば互いに地域を知ることできる。
- ・ 阿南市に県立中学校をつくったために、地元の中学校に進む子どもが減ってしまった。県立中学校をつくったのはまちが良かったのではないのか。

- ・ 橘小学校も複式化になりそうだが、複式学級については、今は閉校してしまった新野西小学校では、複式学級であっても大変意欲的な取り組みをしていた。開き直すことも大切だ。
- ・ 主人が新野西小学校出身。かつては、学校と地域が一体となっていた。大変な面もあったが、皆が学校を中心に様々な活動をしていた。
- ・ 橘小学校に通っていた当時、自分の同級生は38人いたが、今橘町に残っているは3人だけだ。
- ・ 優秀な子どもに育てると、皆、県外の大学に進学し、町を出て行ってしまう。将来橘町に残って、橘町に役立つことをしたいという子どもを育てる学校経営をしてほしい。
- ・ 複式学級の運営は簡単ではないが、学校も地域も開き直すことが必要。そのうえで、学校が地域の力を借りて子どもたちの教育を行っていくことが大切だ。
- ・ 再編統合の対象となっている学校では、再編統合に関わる検討会を立ち上げたと聞いている。橘小学校も何かしなくてはいけないのではないか。
- ・ PTA 役員レベルで集まるよう他校の会長に話をしている。教育長にも要望をあげている。

6 今後の取組について(課題)

(1) 児童の主体性と自尊感情の育成

- ①児童の気持ちや考えを尊重し、児童が主体的に取り組むことのできる教育活動を工夫・実践することを通して、楽しい学校づくりに努めます。
- ②褒める教育を徹底するとともに、「挑戦させ、考えさせ、克服させる」場面を創出し、スモールステップで課題克服と自信獲得を繰り返すことを通して、児童の自尊感情を高めます。

(2) 学習習慣と家庭との連携

- ③家庭学習や読書の習慣が定着するよう、決まった時間に机に向かうよう声かけをしたり、児童が集中できる環境を整えたりするよう、保護者に依頼します。また、親子読書など親子で取り組む活動を依頼し、家庭での学びが楽しく、前向きなものとなるよう支援をお願いします。
- ④保護者に、授業の様子や学習の過程・成果をより分かりやすく共有する工夫を進めていきます。

(3) 学校生活の充実と体力づくり

- ⑤異学年交流や他校との連携をさらに工夫し、子どもたちがより一層充実感をもって学校生活を送れるよう、環境づくりに取り組みます。
- ⑥学校の体力づくりや成果が家庭での運動習慣につながるよう、学校の取組について保護者により分かりやすく発信し、共有していきます。

(4) 地域とのつながり・ふるさと教育

- ⑦地域の「人・もの・こと」を生かしたふるさと学習を推進し、児童の故郷愛を高めます。合わせて、地域で活躍する人の生き方に触れるキャリア教育にも取り組みます。
- ⑧地域と連携した交通安全指導、防災教育をさらに推進し、児童の命を守ると共に、災害発生時に自分で考え・判断し、命を守る行動がとれる実践力を育てます。

(5) 生活習慣と心身の健康

- ⑨スマホやゲームが心身に与える影響について児童・保護者に啓発し、「早寝・早起き・朝ごはん」と「スマホ・ゲーム時間の制限」を徹底するよう呼びかけ、生活習慣の乱れによる遅刻・欠席ゼロを目指します。

(6) 人権教育といじめ防止

- ⑩引き続き、「いじめゼロ」の学校づくり、自他の命と人権を大切にする児童の育成に取り組みます。合わせて、教職員の人権意識向上を図るため、人権授業の徹底、教職員研修の深化を図ります。